

## 令和6年 市政ふれあい懇談会要旨

■開催日時 令和6年5月25日（土）10時～12時

■開催場所 新木近隣センター

■参加者 市民26名

■出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、海老原市民生活部長、

山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等22名

### ■懇談要旨

市民：私の方から3点お伺いいたします。まず一点目は図書館湖北台分館についてですが、今年4月からの利用が縮小されたとのことですが、検索をして、この本を借りに行くというのが子供や高齢者の方には、ハードルが高いとっております。

湖北台は図書館や本屋もないので、本に囲まれて自分で本を選ぶ経験というのは、本当に幼少期からとっても大切なことだと思っております。白ばら幼稚園では、保護者の方々が始められた図書館スペースがありまして、私の子供も自分で借りてこれたと言っていたのを見て、3歳ぐらいの子供が自分で選んできたことを喜ばしく思っていました。図書館という施設は、湖北と新木にはない状態だと思うのですが、教育環境的にも、また心の教育にも悲しいことだと思っております。移動図書館ですとかいろいろな不安はあるのですが、常設で造っていただくか、それが難しいのであれば、空き家など活用して、実現していただけないかと考えております。また、消防署の説明を聞きましたが、そこに憩いのスペースがあるので、そこに図書館もあると嬉しいなと思いました。実際このスペースどれぐらいあるのかっていうのをお聞きしたいと思っております。

2点目です。娘が湖北台東小学校に通っているのですが、保健センターの前のファミリーマートがある信号のない横断歩道ですが、いろんな方向から車が入って来るので、小学生が安全確認をする間もなく車が通ります。横断歩道で通行者がいる場合には、車はもちろん止まらなければならないのですが、止まらない車もあり、ひやりとします。以前は、高齢の方が立っていてくれたのですが、もういらっしゃいません。近くに信号があるので、なかなか信号設備の設置は難しいと思うのですが、先日、男性が車にぶつかって倒れている事故があって、それを見てしまうと子供たちを通させるのが怖い

状況です。ですから、押しボタン式信号があれば、押されないときは車は通れますので、その件を考えただければと思います。

あと3点目ですが、先ほどいただいた資料の2ページ目に公園環境の整備とありましたが、1号公園のベンチですが、過去数年前から自治会さんですとか連合会を通じ、すごくボロボロになっていてクギが出ているベンチがあって、危険なので修復をお願いしているのですが、修復されない状態なので、今年度中に修復されるのかどうかお聞きしたいと思います。

都市部長：公園の方からお話させていただきます。我孫子市には公園施設が数多くありまして少しずつ直しているのですが、1号公園のベンチは状況を見て危険な状況であれば、すぐに修復という形になると思います。現地を確認させていただきます。

市長：公園の方は、お時間をください。湖北台の図書館については、先ほど説明したように、湖北の消防署周辺には、湖北台保育園と市民センター、行政サービスセンター、そして、地区社協があります。ここは、当時公団が建設して寄付をしてくださいました。ですから、もう55年も経っているのを前提に、湖北台地区の皆様と意見交換をずいぶん行ってきました。5年ほどかけて意見交換をしてきた中で、保育園と消防署については、その方向性が合意できて、今の状況になってきたというふうに理解いただいています。地区社協と行政サービスセンターについては、8月前後を目途に移転をします。湖北台の図書館も老朽化が激しいので、一緒に複合化という話もありましたが、当時、意見がまとまりませんでした。今の場所である西小学校の隣から東側に移転するとなると西側の方は遠くなり、西側に移転すると東側の方々から同意が得られませんでした。結局、結果的には自治会のメンバーも含め、いろいろ調整をしていただいたのですが、今の位置を動かさなくていいという結果になり、1期工事としては図書館以外を移転させ、2期工事として図書館の移動先を検討するというところで、合意ができたというふうに私は、理解をしています。先ほど説明したように令和8年度までに大体移転が終わります。その後、建物を取り壊しますので、この場所をどう活用するかという議論はそれからにするということで合意がされたと理解をしています。ただ説明したように、そのまま図書館を残すけれども、老朽化していますから、いつまで使えるかわかりません。

この話については、私は何度も確認をさせていただきました。その段階で仕方がないという結果になりましたので、湖北台の方々も含めて、今これから2期工事の課題として残っている図書館をどこにするかという検討にはいります。今の消防署敷地も一つ、それと、湖北台の図書館が今の場所から移動しないでほしいという声を聞くと、西小の敷地というのを検討したところでした。ただ、西小学校の校舎もご存知のとおり、50年を超える老朽化した建物ですので、本は結構重いことから本の荷重に耐えられません。校舎の空き教室を少し使おうかという検討もしてみたのですが、残念ながら危ないという結論に至ったものです。まず、図書館については、先日のふれあい懇談会でも説明をさせていただきましたが、西小学校の敷地、あるいは今の消防署の敷地を中心に考えながら、図書館をどうするか検討させていただいた状況です。現在、サービスの低下を少なくするよう、移動図書館を西小学校の敷地内に入れるように、また地域の住民の方も入れるように工夫する形で教育委員会でも議論しています。移動図書館、そしてあとは子供たちであれば、学校の図書室、あとは布佐の図書館、ぜひそちらを当分の間は利用していただければと思っております。また、移動図書館は、少し大きめの車になりますから、十分活用できると思っております。消防署の憩いのスペースについては、何平米とは言いつらいのですが、ただ現地をみてもらえば道路の南側、かなり広い敷地になります。一般駐車場のスペースがあって、そこに移動図書館が来るということになります。2点目の信号機ですが、残念ながらこれは市役所では設置できません。警察になります。警察の場合は、近くに信号がある場合には設置してくれません。信号機がある場所まで歩いて行ってくださいと必ず言われます。交差点の度に信号機を設置すると車を運転する側からすると、イライラして無謀な運転をする方もいます。特に、今警察では横断歩道に歩行者がいるのに、通過をするとすぐ違反切符をきるように強く指導しています。我孫子警察を通して要望は行っていますが、これも我孫子警察が決めるのではなくて、県警の公安で決めるものですから、設置は厳しいと思われれます。ご指摘の場所は、信号機までかなり近いですから、そこまで歩くように言われてしまうと思っております。ただ、警察には申し入れをさせていただきます。

市 民：湖北消防署の経過について、議会を見ていましたら、ある議員が、契約不履行みたいな言葉を使って質問をしていたようですが、それは入札不調であって入札されなかったということでしょうか。

市 長：業者の方が途中で辞退をしてしまったということです。

市 民：入札はしなかったわけですね。

市 長：入札をしなかったわけではなく、応札がなかったということです。

市 民：落札した時点で契約していくことになると思いますので、誤った質問をされるとみている人が困惑します。議員の方には、こういった基本的な事やどこで成立するかということは、市長からご指導していただければと思います。それと建築業に関しましては、2024年問題の影響が徐々にでてきておりまして、日本の大手建築業者も赤字になっております。その理由は、資材の高騰、働き方改革で仕事に制限がかけられるようになってきて、納期内に間に合わず、お金が入らなかったということで、すごい額の赤字を出しております。こういうことを考えますと、これから先のこの消防署事業というのはもう3年間だけですが、資材の盗掘がどれだけ起こるかわかりませんし、それから働く人の状況、人手のところもどうなるかわからないので、この案件、一度こういう形で議会で予算案が決定しましたけれども、変更になる可能性が、この2024年問題に絡めて出てくるということを周知徹底しておいて、そういうことが起こった時に、まず議会が進行できるようにした方がよろしいかと老婆心ながら思いますので、よろしく願いいたします。

市 長：はい、ありがとうございます。1点目の議員さんについては、議会事務局を通して、こういった意見がありましたと伝えさせていただきます。当然、途中で入札を辞退したわけですから、それについては契約不履行ではありません。応札がなかったのも、契約行為までいっていません。入札不調であったということです。議員さんには、伝えさせていただきます。また、今回こういったことから入札の条件を少し変更いたしました。

条件は、大体毎年2月ぐらいに国交省から公共工事では改正があります。新しい金額、それと工事期間も結局延長する形で出し直しをして、一応複数社が手を挙げてくれるような状況になっています。

今回は、入札不調にはならないよう期待をしているところですが、仮契約までいければ、臨時議会を招集して、契約行為に入りたいというふうには思っております。履行期間を2年間から2年半に伸ばしました。また、消防の建築の経験というところも外して、消防の建設の経験がなくても、図面通りに建設できる技術力があれば、良いといたしました。ただ、これも蓋を開けてみないとはいっきりとは分かりませんが、私としては、多分今度は建設業者が決まるというふうに期待をしています。今現在、我孫子市内の四つの消防署で5隊の救急隊があります。今目標としては、年間7,500回の消防車、救急車の出動回数に対応するよう、もう1台増やそうという計画で、この湖北の消防署を大きく造って、救急車が2台体制になるように建設を計画していたのですが、残念ながら、コロナの影響で去年の段階で7,500回を超えているという状況です。早く救急隊を増隊したいのですが、実際は厳しい状況です。ただ、そんなことは言うておられませんので、今救急車は5台体制プラス2台の予備車で7台を確保して、あとは救急救命士の数を揃えています。これを揃えながら、あと近隣市とも連携を深めておりますので、全て出払っている場合は、柏市にもお願いをしたり、逆に柏市の要請に対応するなどして、近隣地域との連携をしながら、何とか我孫子市民の救急要請に応えております。この湖北消防署は、救急車をもう1台増やすだけでなく、救助隊も一隊増やす予定です。今、救助隊は我孫子に一隊だけです。市役所の近くの西消防署に救助隊が一隊あるだけです。最近、交通事故で車の中に閉じ込められたり、高層マンションで火事があったり、我孫子も高層マンションはありませんけれども、3階建て以上のマンションがある中で、はしご車も用意はしてありますが、救助隊の体制も強化をしようということで、訓練棟を用意し、日頃の訓練を行いながら、市民の安全、安心を確保していこうという方針にしています。周辺の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解をいただきたいと思っております。

そして、下ヶ戸・中里線についてですが、この道路ができることによって湖北の消防署から新木地区へ非常にスムーズに行けるようになります。消防署の開署が、半年ほど遅れることとなりますけれども、着実に消防署を造っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

市 民：2024年問題で、業者が契約履行が出来なくなった時に契約違反だと言って絞ってもいいのですが、絞られても業者が耐えられない状況が今の日本の状況だと思います。そういったことを踏まえた予算、補正予算などを皆さんにも理解してもらった方がよしいのではないかと思います。

市 長：私どもの契約担当としましては、その契約が順調に進まなかった場合にペナルティーを科すとなると誰も手を挙げなくなると思いますので、そこまでしたくないと職員の方は思っていますが、議員さんの中ではそこまで言う人がいます。やっぱり商売をやったことがある方と、あるいは家を建築発注した場合などがある人だと、大体その辺はわかってくれます。働き方改革が進むにつれて、今、我々が一番困っているのは、特に小児救急です。我孫子の場合は、当時小児救急は取手協同病院と契約をして、補助しながら取手協同病院に頼っていたわけですがけれども、医師の働き方改革の影響で、小児科医不足による救急搬送が受けられないという状況が、この4月に起きています。夜11時から次の朝8時までは、取手共同病院の救急車が受け入れられないという現実を踏まえながら、先日、我孫子の医師会長とご相談させていただき、小児救急の引き受け先として、柏市との協力体制をお願いしながら、どういう考えで協力できるかについて、お話したところ、「協力しあっていきましょう。」と言ってくれました。小児科医が足りないという現状を踏まえて、そこへ医師の働き方改革ですから、人手不足です。特に小児科は深刻な状況です。医学部の定員を増やしても、一番残業の多い小児科さんか麻酔科、外科には来てくれない。特に救急救命です。ここになり手がいないという現状の中では、なかなか厳しいという話で、この前、千葉県知事にもお願いしました。医師の偏在というのはよくあるのですけれども、医師の偏在というのは千葉県内では房総の方だけではなくて、この東葛地域でも現実的に起こっているということを踏まえてもらって、特に小児救急が厳しくなっているのが我孫子と野田です。近くの柏や流山、松戸にも協力してもらいながら、何とか救急医療体制を維持しながら小児救急対応しているという状況です。

小児科を除けば、市内には五つの救急病院があります。何とか市内プラス柏市、あるいは印西市など小児科の先生の救急は厳しいものがありますので、そこについては市民の皆さんも、子供を見てくれる内科外科の先生で、まず1次トリアージをした上で、内科

外科でも終わる問題が救急搬送の9割にのぼるという現状を踏まえて、内科、外科の先生に見てもらった上で、これは小児科の先生しかないというふうに対応していかないと、働き方改革によって非常に厳しくなってくると思います。バスやタクシーも運転手さんがおりません。特に、天王台から湖北、新木あたりのタクシーです。実際にタクシーもバスも車庫にはあります。ただ車を運転する運転手がないのです。これも働き方改革の影響で、時間はある程度シビアになっていて、もうちょっとの残業をするなというふうになってくると、運転手さんに無理をさせてはいけない状況になってしまって、バスやタクシーがさらに動かない。先ほども報告させていただきましたが、国道356を通る布佐から天王台に行くバス路線が廃止。そして、布佐の平和台を通る布佐の南口から新木の南口を通るバスも廃止となる状況で、これは利用客が少ない中で、運転手が減ってくると、不採算な場所、路線から廃止だというもので、民間企業ですから当然の判断だとは思いますが、そうは言っても、市としてはそれをそのまま「そうですか」と認める訳にはいきません。市としては補助金を出してでも継続できるように、ただ先ほど運転手不足というところを踏まえると平日も休日運行で、少し減便にはなりますが、少しでも現状に近づいた形で何とか維持できるようにと考えております。平和台線については、6月に補正予算をつけて、継続できるようにしたいと考えております。そして運転手さんを確保するため、阪東バスさんに赤字補填をしながら継続をするという形で維持をまず図ってまいります。

新木ルートは、あびバスの中でも最も大きな赤字で年間1,000万円を阪東バスに支払いながら継続をしていますが、平和台線も7ヶ月で800万円を見込んでいます。年間になるとその倍の予算を組んでも平和台線を維持するかどうか、という問題を抱えております。またこの国道356を通る布佐から天王台行きの布佐ルートについても、およそそれぐらいの補填をしないと維持できないという状況です。また当然、お乗りになった方はわかるかと思うのですが、大体この新木あたりになると、乗っていても3人ぐらいです。そういう乗客数を見ながら継続をしていくかどうか、どういうふうに支援していくか。ご指摘の24年以降からくる働き方改革で、あちらこちらで人が足りないという現状は建築業界でも同じように厳しいようで、各建築現場に複数現場を持たせることが、今できなくなってしまう、1現場に一人という、さらに厳しくなるというのは建築業界からのヒ

アリングの結果でした。それを踏まえながら、我々としては対応していこうと思っております。ありがとうございました。

市民：市長さんの話で、ようやく我孫子市の転入者が2,000人ということで、非常に喜ばしいことです。この新木の地区も国際化の波に押されまして、外国人の転入者が結構増えてきており、特に先月下旬から今月にかけて新木団地に中国人の方が8名転入されてきました。問題はゴミの処理が全くできていなくて、3日、4日前ぐらいに缶、瓶、生ゴミが全部混ざった大きい袋が出されていまして。ただ、その場を私は見たわけではありません。多分、そういったことを行う地元の人はいないはずで、私は、中国の方かなという感じで、たまたま私がゴミ当番の担当だったものですから。大雨の中、先週道路に全部出して、2人の方も手伝ってくれて全部仕分けをしました。聞きたいことは、我孫子市にそういう外国の方が来た時に、どういう説明を最初にされているのか。それから、担当課に電話で聞きましたらパンフレットが英語とか、中国とかいろいろなものがあるということですが、そういったものは渡しているのか。それとも一つです。自治会に加入してもらいたいということを日本語が片言で喋れる中国の方に説明したのですが、絵で示すと理解できそうなので、ある程度わかったようでしたけれども、自治会については、全く理解しない。できれば、会話のできる市職員がいれば説明していただきたいのですが、「翻訳アプリがありますよ。」という話をいただきました。現在まで詳しい説明をしておりませんので、今週の火曜か水曜日に説明しようかと思っております。その点、どういうふうに対応したら良いか、お聞きしたいということです。

生活衛生課長：1年ぐらい前に、皆様の各ご家庭にゴミの分別方法について、内容を更新した冊子をお渡しています。それには外国語版がありまして、6カ国語に対応しているものです。そこには中国語も入っておりますので、後ほど具体的な場所など教えていただければと思います。市としましては、転入してきた時に冊子等をお渡ししているのですが、今の状況ですと、持っていらっしやらないようですので、個別に我々の方でパンフレットを差し上げて、もしいらっしやるようであれば、詳しくお話させていただければと思います。これについては、そういった対応をさせていただきます。

市民生活部長：ご質問ありがとうございます。外国人の方が自治会に入っているという情報は私の方では持っていないのですが、例えば、日本人であっても、自治会は任意加入ですから、なかなか強制加入はできないという部分がございます。

ただ、中国の方が自治会そのものを理解していない。もしかすると入りたくても、そういった情報がないという可能性もありますので、どういう形で周知できるかということは、今後検討していきたいと思いますが、外国の方が自治会に入っただくことは可能かとは思いますが、今の情報としてはないということでございます。

市長：昨年2,000人ほど増えたということですが、そのうち約半分は外国人です。

コロナ以降、外国から我孫子に転入してくる方が増えております。それは、大学の留学生、もう一つは、電力中央研究所、NECの研修生、その他にも、介護施設等で働く外国の方が増えてきています。

我孫子市には、我孫子、天王台、湖北、布佐に日本語学校ありまして、その中で日本語を勉強した後に、日本で働こうという方がたくさん住んでおられます。

布佐の場合ですと、利根町にウェルネス大学がありまして、アルバイトがしやすくコンビニも多くあるということで、布佐に住んでいます。日本語学校に通っている人は、日本で生活する際に日本語だけではなく、日本の生活習慣を覚えないと、生活しづらいという話を日本語学校の中で教えてもらうように協力要請をしているところです。

しかし、やはりゴミの出し方によって結構トラブルがこちらこちらで起きているという話は聞いております。まず、ゴミの出し方、分別の仕方については、日本語学校で教えておりますが、日本語学校を経由しない方については、今ご指摘のようになかなか難しいところであります。外国語版のパンフレットを配りながらお話をするしかないだろうと思っております。外国の方が理解するまでに時間はかかるかと思いますが、ただ悪気を持ってやっていないという前提で、特に同じ日本人でもゴミの分別がそれぞれ地区で全然違いますから、我孫子市では除外されてしまうゴミ袋もありますので、そこについては根気よく教えていくしかないだろうと思っております。日本人の中でも、慣れてくるまで分別ができてない方が、現実にはいらっしゃいますので、皆さんにご協力をいただくしかないと思っております。よろしく願いいたします。先ほどのケースは少し情報をいただければというふうに思っています。

市 民：气象台公園についてお聞きしたいのですが、先日、松食い虫退治ということで、かなりの本数の松の木を伐採したということですが、それにより、日陰がなくなりベンチには日があたり、休むことが出来なくなりました。伐採のあとに植樹など行ってもらいたいと思います。

都市部長：市内の公園は松枯れの被害にあいまして、46本ですが伐採をしました。シンボルのような樹木もありますので、それを含めて今対策をしております。伐採した樹木の周り等も含めて、調査しておりますので、終わり次第今後の対応を検討することになると思います。ですから、植樹については、まだそこまで至っておりません。今後は、气象台公園のベンチの移動なども含めて、どのあたりまで行えるか検討していきたいと考えておりますが、公園施設の遊具もありまして、予算もかなりかかって遊具更新が2年ぐらいで遊具停止期間というところもあり、予算と比較しながらとなります。現場はもう既に確認できているのですが、ベンチのお話は、私の方に来ておりませんでした。今後、それも含めて検討させていただきます。

市 長：我孫子市内の公園では、松食い虫、ならの木枯れなど、伝染病ですので広がらないように整備を行っております。伝染病が落ち着かないと、植樹してもまた病気にかかってしまいますので、次の手段に移れない現状だにご理解ください。伝染病は、少しずつ広がっていきます。樹木医さんと相談しながら、慎重に様子を見ることとなりますので、お時間いただければと思っております。よろしく願いいたします。

市 民：ゴミの問題ですが、資源ゴミの用具を自治会の方で管理しています。自治会内で用具を出して、ゴミの収集に努力しております。そして高齢化が新木団地の自治会さん同様に進んできまして、地区によっては半数以上が65歳以上で、ほとんど75歳以上で最高齢が90歳の人もいる状況です。要は、ゴミの用具は輪番制のところもありますので自分の家から持って行って、お当番をするグループが一月交代や一週間交代などで行っていますが、高齢と言うことで、体力の限界になり、それもできないという問題が起きていたので、アンケートをとりました。そうしたら、固定の設置場所にゴミ道具をお願いしたいと要望がありました。道路上に箱を置くことは出来ないと思います。私の方で



もあるのですが、これを進めてきたところ、今までふれあいゴミ収集車が1台で廻れたのが、2台目を買うことになりました。それだけ我孫子の中でも、高齢者がゴミを出すにあたり、ふれあい収集に依存してきているというのが、件数が増えてきていることからわかります。これも、何歳になったからではなく、当然、独居高齢者で、健常者ではなくていわゆる要介護者など、そういう条件がありますので、ここも踏まえながらよほどゴミ出しが厳しい方は、とりあえずふれあい収集を行っていただくことになるかと思えます。全体としては、ふれあい収集をしていない件数が減ってくると、もう少しゴミステーションの場所を集約せざるを得ないと思えます。それぞれの自治会の中で検討していただいた上で、最後は生活衛生課に相談に来ていただければと思えます。

自治会役員の皆様は、いろいろ大変なご苦勞をしているのは、他の自治会からも聞いております。本当にありがとうございます。これからも頑張ってくださいと思えます。よろしく申し上げます。

市民：私のところは、駅から非常に遠いところで、バスもない所なのですが、元気なうちは何かできたのですけれど、自転車などで行き来しています。先ほどのお話の中での確認となりますが、阪東バスが撤退するという事で、市の方としては、これまでと同じような条件で従来通り運行するとのことで、9月からシャトルバスで実験されるようですが、もうこれ以上運行数が減ると不便になってしまいます。これからは、高齢化で運転免許を返納する人も多くなります。その点などを踏まえて、市の方ではどのようにお考えか、将来も含めてお話をいただけるとありがたいです。

建設部長：阪東バスの布佐駅から天王台駅のバスについてですが、採算が取れなくて赤字となっております。阪東バスさんには頑張ってくださいなのですが、今年8月で廃止となる予定です。今、平日5本ぐらいです。我々の方で実証という形で9月から布佐駅から湖北駅を通過して、天王台駅の北口ルートでのバス運行を開始する予定です。その中で、アンケートをとるなどして、運行していきたいと思っております。平日の運行だけで、土日は運行しない形をとりますので、平日だけ帰りの天王台から布佐駅まで同じ便数で運行する予定です。

市 民：9月1日からの実施ということによろしいのですか。

建設部長：我々が運行補助するのが、9月1日からですから、阪東バスさんは今まで通りです。基本的にはあまり変わりません。平日だけです。9月1日から土日は運行しなくなります。

市 長：資料に時刻表があると思いますが、それが9月以降の時刻表になります。まだ最終確定しておりませんが、若干変わる可能性があります。基本的には土日は動きません。平日だけです。阪東バスさんと話をしているのは、7時から19時、これはバスの運転手さんを確保している時間です。18時台は布佐の南口から天王台までで終わってしまいます。天王台から布佐の南口は18時だというのが、阪東バスさんとの話です。先ほど働き方改革中でやりくりがつかず、基本的な契約として一台のバスで一人の運転手さんができる範囲内という状況になりますので、これ以上の時間帯を伸ばそうとすると、さらに別料金が発生する状況となります。よって、9月からこの方向で行う予定であります。この形で運行しながら、アンケートにてご意見を頂戴していきたいと考えております。どこで何人が乗り降りするかなどをカウントさせていただきながら、必要性があるなしという確認をさせていただき予定ですので、ぜひともバスをご利用の皆さんも含めて、維持するためには乗っていただかないと、この時間帯に誰も乗らないということになり、時間帯の把握が出来なくなります。私としては半年間、この布佐ルートについても、利用する必要性の高い人たちの時間を見ながら、検討を進めていきたいと思っております。国道356を通る布佐線も天王台を通るルートについてもカウントさせていただきながら運行していく予定ですので、ぜひ利用していただきたいと思っております。一応、予算は半年間です。また来年度も、予算をつける予定でありますが、議会側で予算が成立しないとそうはいきません。なお、あびバスについては、今のところ、変更はありません。このことについては、去年の年末ぐらいに阪東バスさんから突然言われまして、阪東バスさんも親会社から廃止するよう言われていたのです。

コロナによって、乗客数が激減した中で、市民の足を確保していきたいという形で、頑張ってきてくれましたが、さすがにこのような状況になっては、厳しいということにな

りました。あびバスについては、湖北駅から新木駅までのルートを確認して、あくまでも布佐から国道356を通過して天王台まで市民の足の確保をと思っております。

市民：関連ですが、今のバスを走らせていただけるということで、安心しておりますが、今まで、国道356であびバスと阪東バスが連なって走っていました。これは、非常に無駄だなと思いますので、時刻表を検討する際に、その辺は阪東バスさんと相談していただいて、出来るだけ、穴がないように走っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。ただ行き先が違うものですから、それと必ず言われるのが、そのバスに乗ったら成田線に乗れるかと確認されます。成田線に乗れるという時間帯を含むと、大体同じ時間帯になってしまいます。それと、最近ちょっと年取って駅に行く時間がかかるから、もう少し早めに駅に着いてくれると助かるという声上がるようになってきましたので、頂戴したご意見も踏まえながらダイヤ調整、これは阪東バスさんとの調整になりますので、行っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

市民：バスの件でお聞きしたいと思います。実証運行ということで、9月から行われるということですが、阪東バスが撤退すると表明したようですが、撤退からこれまでの間、市役所さんの方でどのような検討をされたのか。どのようなことを考えられているのか。2点目でございますが、実証運行とおっしゃいますが、結局、今までと同じルートで同じ料金で同じダイヤで行います。違うのは、土日運行しないというふうに理解をしたのですが、これで何を実証するのかわかりませんので、アンケートをとられるというようなお話がありましたけれども、アンケート調査だけであれば、今でもできますし、わざわざ9月まで待つ必要もないと思っております。どのようなアンケートをとられるのか。まだ内容まで決まっていなくてもいいかもしれませんが、そのあたりをお聞きしたいと思います。あと、どのぐらい利用されているのかというのを、確認をするというのも一つの目的でしょうから、阪東バスにおいても、撤退するというのであれば、日中どのぐらい乗っているのか、どこからどこまでどのぐらいの人数が乗っているのかというデータは当然あると思っております。そのデータをもとに考えれば、ある程度想定はつくと思っております。この地

域にどのぐらいの人がいて、どのぐらいの年齢の方が勤めているかなど。あと国勢調査等でも、例えば東京都内への通勤者であるとか、県内は、どのぐらい通勤しているのか。そういうデータもあるかと思imasので、大まかの見通しなど、そのあたりをぜひお聞きしたいと思imas。最後でござimasが、これは要望なのですが、アンケート調査を行う人ですが、今現状バスを利用している人に行うのはもちろんのこと、使いたくても使えないという人たちもそれなりに多いと思imas。どうしても利用者が少ないと、ダイヤを減らすという発想、これは当然ある話だと思imasのですが、逆にダイヤが少ないから利用しないという人も、それなりにいらっしやると思imas。私自身も通勤に使いたいのですけれど、時間が合わなくてなかなか使えない。5月でしたが、ダイヤ改正があつて、6時台のバスがなくなったことによって、非常に不便になりました。帰りについては、17時、18時でも終わってしまimas。全く使えない。そうなると、このダイヤで運行していても若者なんかは、移住しないでしょう。そのような中で、我孫子市としてはこの地域はもう老人だけの街にするのか。それとも若者の移住してくるような街作りをしていくのか、その辺りのご見解をお伺いしたいと思imas。

建設部長：ありがとうございます。おっしゃるとおりでござimas。昨年、我々も阪東バスさんから赤字路線であると伺つておrimas。元々、我孫子の東部地区の活性化を目的として、布佐駅からのシャトルバスということで計画しておrimas。今おっしゃられたように若い人達にも住んでもらいたい、東側地区の住宅増築の活性化により若い人が移住してくるようという目的でした。当初は、湖北駅から天王台駅までノンストップで走る話をしていたのですが、同じ路線の中で、急遽そのバスを廃止しますということになりましたので、そうしますと、途中をとばすわけにはいかなくなりましたので、我々としては東地区の活性化の目的を持ちつつも、布佐駅から天王台駅まで成田線の補完という意味も含めて、実証をしていこうということになりました。ただ今アンケートの話がありました、シャトルバスという目的から考えておrimasので、今のところどういふアンケートを行つていくか、明確なところは決まっておrimas。ただ、今おっしゃられたように、時間帯のこともありますし、時間帯を伸ばしてしまimasと、バス1台に対して、運転手1人、現時点で運行費が700万円ですので、時間帯を増やすともう1人の運転手が必要になってきます。倍額になります。そういう状況から、では倍の人数が乗

っていただけるかっていうと、なかなかそこは難しいだろうと思いますので、どの時間帯を通すのが一番有効なのかというのを我々としては見極め、夕方を増やしてほしい、逆に朝の方がいいという方もいらっしゃるれば、そちらの方にシフトするなど、検討していかねばならないと思います。

市長：今、部長から説明しましたように、実はこのシャトルバスという表現で、これまで検討していたところですが、あくまでも通勤時間帯は1時間に3本で、それ以外のところは30分に1本の成田線を補完する必要があるだろうということで、実際にJRと何度も交渉しておりましたが、着実に利用者の数が減ってきています。私が市長に就任した時は、天王台駅が2万3,000人ぐらいで、成田線8駅で同じぐらいの人数でした。それが、大利根有料橋が無料になってからは、それを利用する方が増えて、天王台駅付近の駐車場も利用者が減っていきました。それでも、天王台駅は2万人の利用者がおりますが、成田線は8駅で2万人をきっている状態です。東我孫子駅は乗降客数のカウントすらなくなりました。そういう状況の中であると、やはり成田線沿線に住んでいただくためには、シャトルバスで成田線の補完をしなければならないという結論に至りました。その時は、国道356を通らないという前提で、なるべく早くいけるといって、信号が少ないふれあいラインを通るといって、そちらを中心に考えていて、先ほど部長が説明したように、湖北台は湖北駅から天王台までのバスがありますから、布佐、新木の方を早く天王台に送るようにと進めていたのですが、それがコロナの影響で、非常に多くの人たちが電車に乗らなくなりました。このコロナの期間にシャトルバスの実証運行をすると、バスは必要ないという結論が出そうな状態は、皆さんもご理解いただけると思います。そこに、突然阪東バスの路線廃止の話が来ましたので、まずは、この路線の維持が先だろうという結論に至ったところです。ですから、ルートも同じ、料金も同じバスで、バス停も同じということで、当初の予定と全く違う方向で考えざるを得なくなりました。この路線の維持、あるいは逆に違う路線を通して、天王台に早く行けた方がいいだろうと考えました。先ほどのご指摘に、もうちょっと朝早い時間帯を、あるいは夜終わる時間帯を伸ばすことを望むのか、それとも生活の足として確保する時間帯の方がいいのかというのを、皆さんに聞いていきたいと思っております。病院に行きたい方については、この辺の病院は送迎バスがありますから、病院に行くのが目的であれば、このバスはいりません。

ただ、例えば慈恵ですとか日医大病院に行かれる方々は、やはり駅までのバスが必要になるでしょうから、その辺も踏まえながら、当初予定していた成田線沿線から天王台までの速達性重視のバス路線を変更し、今現状走っている路線バスの確保を行い、2本の路線を並行しながら、様子を見ていきたいと思っています。これにより、様々な検討をもう一度やり直す必要があるだろうということです。今の路線バスよりも違う路線が良いという意見もあるかもしれません。ただ、下新木の道路は、路線バスが曲がり切れないうということで、本来ならバスを通したかったのですが、バスをもう一回り小さくすると、乗客が多く乗った場合に、乗り切れなくなります。そういったことも踏まえて、阪東バスさんと協議を行っていきたくて考えています。まずは、現状のルートを確認します。いずれルートが変わる可能性はありますが、当然ルートが変わるということは、バス停も変わるということもありますので、そういうところも踏まえながら、皆さんにご意見をお聞きしながら、進めていきたいと思っておりますので、その際は、何卒、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

市民：今のバスの件ですけれども、とても難しい判断だったのだなと思えました。先ほど、市長の方であびバスが赤字で、補填しているとお聞きしましたが、新木地区では、大体1,000万円くらいとお聞きしましたが、他の地区はどのくらいの赤字なのでしょう。

市長：全て赤字です。いくら補填をしているかというふうに理解していただければと思います。私の記憶では、良く乗ってくれるところで400万円、500万円の補填だと聞いております。当然、路線バスが赤字であるところですので、もともと赤字で運行しているということです。ご存知のように、終点まで載っても150円で、阪東バスの最低運賃と同じようにさせていただいていますが、阪東バスさんは、最低運賃が170円に上がりましたから、今路線を継続している所で200円にしてでもいいから継続してほしいという話があったと伺っております。

交通政策課長：あびバスの年間の市の持ち出しにつきましては、運行経費から皆さんが乗っていただいた運賃を差し引いてその差額分を、運行事業者の方にお支払いしてあります。今市長からお話しがありましたとおり、新木ルートにつきましては、大体1,000万くらい

補填しています。補填額の方ですが、ドライバーの賃金ですとか、燃料の高騰ですとか、あとバス車両自体も値上がりしていますので、年々負担額は増えております。私どもといたしましては、財源に限りがありますので、それを抑えようとして、例えば、新木ルートと布施ルートには予備車両がございまして、バスが壊れたとき、あと車検や修理に出してるときに使うバスを布施ルートと共有する形で運行の方を行っております。令和5年度については、布施ルートと新木分と合わせて、2,832万9,907円となり、半分にしますと約1,400万円ちょっととなります。令和2年には1,500万円ぐらいお支払いしています。船戸、台田ルートにつきましては、栄、泉、並木ルートと、予備車両を共有する形で運行しております。こちらについては、2路線で2,472万4,236円を令和5年度に運行事業者の方にお支払いしています。根戸ルートにつきましては、1,061万51円となります。こちらも令和5年度に運行事業者にお支払いしております。大体、1,000万円から1,000万円ちょっとが、1ルートにつき、支払っているということでもあります。乗っていただければ、乗っていただくほど、経費は掛かりませんし、市の持ち出しも減ってきて、その分、他のバスですとか、福祉の事業などにお金が回せるようになりますので、出来るだけ、マイカーをお持ちの方でも週1回でもいいので、ご利用いただければありがたいです。どうぞよろしく申し上げます。

市長：先ほど、昨年聞いた金額を伝えましたが、全て1,000万円ほどになってしまいました。実際に運転手さんの人件費やガソリン代の値上がりもありますから、必要経費は増えていくものです。今回、廃止される2路線も、これぐらいかかるのではないかと思います。皆様、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。